

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00844

研究課題名(和文) Assisted Reading 多読への架け橋

研究課題名(英文) Assisted Reading: Bridging the Gap between Intensive Reading and Extensive Reading

研究代表者

田口 悦男 (TAGUCHI, Etsuo)

大東文化大学・外国語学部・教授

研究者番号：60255974

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：第二言語の読みにおいて単語認知などの下位スキルの重要性がこれまでの研究により明らかになり、多読に代表される読みの流暢さを育成する教授法が教育実践に導入されつつある (Day, 2015; Nakanishi, 2015)。一方で、多読などの読みの流暢さを育む教授実践により読み手がどのように読み能力を向上させ、自らの読み能力を発達させるプロセスを明らかにした研究は少ない。本プロジェクトは、多読とは異なる繰返しと音声モデルの使用を用いた繰返し読みにより読み手を支援する方法が文章の意味を正確に読み取ることを目的とする intensive reading をどのように補完するのかを調べるために行われた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多読に代表される流暢さを育成する教授法が普及しつつある (Day, 2015; Nakanishi, 2015) が、多読により読み能力がどのように発達するのかは必ずしも明らかではない。多読の導入に際し、1) 精読に慣れた学習者の多読の面白さの発見、2) 多読の取り組みの評価、2) 必要な支援の提供という課題がある。多読が普及する反面、効果的に取り組めない学習者は少なくないという報告 (Taguchi, 2017) もある。研究代表者は、オンラインプログラムをIT企業の支援を受け開発し、コンテンツ拡充を進め、多くのL2によるリーディングの研究者や学習者にコンテンツを届ける本プロジェクトを進めている。

研究成果の概要(英文)：In reading research in a second language (L2), the critical role of lower-identification skills such as word recognition and basic parsing has increasingly been emphasized, and accordingly, fluency building approaches such as extensive reading and others have become popular in L2 reading classes. It has not been clear, however, how such fluency building approaches help L2 readers foster their reading ability, and consequently become independent L2 readers. This project has utilized a fluency building method called assisted repeated reading which is similar to extensive reading can complement the traditional intensive reading approach to serve the purpose.

研究分野：リーディング

キーワード：reading fluency repeated reading extensive reading reading rate reading comprehension scaffolding L2 reading assisted reading

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年、多読が普及する一方で、多読に効果的に取り組めない学習者や、上級者であっても、外国語による読書を愉しむレベルにまで到達するケースは少ない(Taguchi, 2017)。本研究の目的は、読みの流暢さの発達を促す Assisted Reading (AR) (Taguchi et al., 2016) の効果検証を行うことである。研究代表者は、Repeated Reading (RR)を導入する際に研究者・教師に労力と時間の負担がかかるため、科研費により RR のオンラインプログラム (仮称 Web R2) を IT 企業の支援を受けて開発し、研究者間や第二言語の学習者に公開をするための準備を進めている。この教材を使用し、「音声」と「繰り返し」という、リーディングを支援する「足場掛け (scaffolding)」を提供することで、自立し、外国語による読書を愉しむ第二言語の読み手を育成する方法を検証する。

2. 研究の目的

母語では単語認知などの下位スキルがほぼ自動化しているため、一度の読みでもかなり深い理解が得られるが、外国語 (英語) で読む場合には、上位レベルの読み手でも一度の読みで深く理解することは難しい。近年、多読の取り組みが普及する一方で、効果的に多読に取り組めない学習者も多く、また、上級者であっても、外国語による読書を愉しむレベルにまで到達するケースは少ない。本研究では、読みの流暢さの発達を促す新たな Assisted Reading という方法について、その普及に向けた効果検証を行う。開発済みの Web R2 というウェブ型教材と市販の多読テキストとを併用し、下位スキルの未発達な学習者や、上位レベルの学習者の双方に、多読に効果的に取り組ませる「足場掛け (scaffolding)」を提供し、自立した、外国語による読書を愉しむことができる読み手に成長させるための効果的支援について検証する。

3. 研究の方法

研究代表者は、RR を導入する際に研究者・教師に多くの労力と時間の負担がかかることに鑑みて、科研費により IT 企業の技術支援を受け開発した RR のオンラインプログラム (仮称 Web R2) について、これまでの運用から読みの回数設定、コンテンツ拡充が複雑であることなど、幅広い運用レベルや興味を持つ学習者に対応できない問題点が生じてきた。このため、多様な学習者を擁する授業での活用への利便性を高めるためのシステムの改良とコンテンツの拡充を行う。本格的な研究データを収集する平成 31 (2019 年度までに、改良・拡充したプログラムを試行運用し、バグ等を修正した。

この改善したオンラインプログラムと市販の多読テキストを併用し、Assisted Reading の効果検証を行う目的であった。下位スキルが未発達であるために多読に効果的に取り組むことのできない学習者、そして高度な外国語の運用能力を有するが、読書を愉しむことのできない学習者の双方に、音声と繰り返しという、2つの「足場掛け (scaffolding)」を提供し、読み能力の向上と多読習慣の涵養につなげる方法である Assisted Reading が第二言語の読み手にどのような影響を与えるかを探った。

4. 研究成果

第二言語の読みにおいて、単語認知などの下位スキルを発達させることの重要性がこれまでの研究により明らかになり、多読に代表される読みの流暢さを育成する教授法が教育実践の場に導入され、普及しつつある (Day, 2015; Nakanishi, 2015)。一方で、第二言語の読み教育において、多読を通してどのようにして読み手の読み能力の向上が促され、自力で自らの読み能力を発達させていくことの出来る、いわゆる自立した読み手 (independent reader) に育っていくのかというプロセスを明らかにした研究はほとんど見られない。易しいテキストを読み続けることでテキストの情報処理能力は高まるが、読み能力の向上には文字や単語認知の下位スキルだけでなく、理解を促進する認知ストラテジーや理解に支障をきたした場合のメタ認知ストラテジーの行使など、第二言語によるリーディング能力を育成する方法についてリサーチに根差した具体的な指針はまだ提示されていないように思われる。

また、従来の読み指導の中に、多読を位置づけ、それにより読み能力をどのように発達させるのかについての具体的に明らかにした研究も少ない。つまり、文章の意味を正確に読み取るための intensive reading と多読に代表されるインプット重視の読書経験を積むバランスのとれたリーディング指導をどのように実現するのかという問いに答える研究もまだまだ少ないと思われる。

多読の普及が進む一方で、多読に効果的に取り組めない学習者は少なくないという報告もある (Taguchi, 2017)。Xreading など優れた商用多読教材もある中、研究代表者による RR のオンラインプログラム (Web R2) を上記のような研究課題をあきらかにするために活用して行きたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Taguchi, E., Gorsuch, G., & Mitani, K.	4. 巻 2021 online
2. 論文標題 Using repeated reading for reading fluency development in a small Japanese foreign language program.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pedagogies: An International Journal	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/1554480X.2021.1944866	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Taguchi, E.	4. 巻 38
2. 論文標題 Spiral viewing: A fun method to bridge the gap between graded and authentic materials	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal of the Institute for Language and Education Research	6. 最初と最後の頁 195-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田口悦男	4. 巻 37
2. 論文標題 オンライン・リーディングプログラムWeb R2を用いた読みの流暢さの育成の試み 予備的研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 語学教育論叢	6. 最初と最後の頁 131-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Taguchi, E., Gorsuch, G., & Mitani, K.
2. 発表標題 Using repeated reading for reading fluency development for learners of Japanese.
3. 学会等名 Poster presented at 2019 Second Language Research Forum (SLRF) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	戸田 博人 (TODA Hiroto) (80644393)	明治大学・研究・知財戦略機構(和泉)・研究推進員 (32682)	
研究 分担者	川口 淑子 (KAWAGUCHI Toshiko) (50410775)	帝京大学・理工学部・准教授 (32643)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------